

市議会議員

おのざわ康弘の

会派活動報告

ひげ通信



2020

62~63

発行日 20-3(清令会 小野澤康弘)

Tel.049(232)5789 Tel.049(231)4850

おのざわ康弘ホームページ
http://onozawayasuhiro.com/

令和元年12月、令和2年3月市議会報告

西暦二〇二〇年が穏やかな日差しの中で始まったと思ったら一月の後半から世界中が新型コロナウイルスの感染問題により各国の対処施策や人としての在り方が問われる大きな課題を私たちも含め背負う状況となったことはいままでもありません。川越市にとりましても昨年の台風十九号による気象災害の対応について市長を先頭に職員の皆さんや地域の皆さんも早期の復旧に全力で立ち向かっておりましたところ、国難とも思われる、目に見えない危険と向き合うこととなりました。そのような中、三月十三日新型コロナウイルスの感染拡大に備える改正インフルエンザ等対策特別措置法が成立し、首相の判断により都道府県知事の行政権限を強めることが可能となりました。中核市川越(二〇一五年一定の要件を満たし中核市となる。埼玉県より保健衛生等、二〇〇〇あまりの権限の移譲を受け自らの市で保健所の設置を行った)として、市長側の執行機関と我々市議会としての機関の機能と権限を最大限活用して国や県の指示を仰ぎながら川越市として両輪で、特に高齢者や子供たちを含めた市民の皆様や事業者の方々の為にもしっかりと難問を乗り切っていく行かねばならないと私は決意しております。

としての私の市議会報告「ひげ通信」では昨年の台風十九号による気象災害とも言われる十二月議会の報告と令和の年号が変わってからの初めての川越市の予算案を含めた令和二年度川合市長の市政方針及び教育行政方針並びに川越市民の皆様のための川越市一般会計予算審議に関する三月議会のご報告を記載致しましたのでご拝読いただければ幸いです。今後とも川越市皆様の為に何事も一生懸命頑張りたいと思いますのでよろしくお願いたします。



十二月議会一般質問(詳細は二ページ)を行うにあたり、二年前の平成二十九

年十二月の一般質問の中で「川越市の雨水対策について」を取り上げた事があります。当時川越市への道路整備・水路整備等に関する市民要望件数はざつと二、四四一件、予算に換算すると五百億円となり、その内、雨水対策については七四九件であり予算に換算すると百億円程度になることはすでにご報告させていただきました。今回の十二月議会の一般質問では基本的には国が管理する河川に対して各自治体の要望等による河川対策や雨水対策にかかると問題をも具体的に取り上げました。今回私が在住する名細地区において越辺川の決壊という衝撃的事実がございましたが、そこに関連した雨水対策について触れてみましたが、私が今一番思う事は、河川の氾濫による壊滅的な被害を避けるためには「困難はありますがまず、河川が越水しても破堤しない堤防が必要であると思います。そのためには「堤防の強化」「河川道路等の整備」「河川の監視機能の強化」の三点だと思えます。リーダーはやはり国主導であり各自治体がどこまで限られた予算の中で、抜本的な対策がどこまでできるかが大きな課題であると同時に避難場所に対する問題が本市でも大きな課題となった事実もございしますが、早急に整理を行い体制を整えていく必要があります。

令和元年十二月議会

令和元年十二月議会一般質問
「多様化する災害と防災」

令和元年十月に発生した台風19号による気象災害について一般質問を行いました。今回の台風による災害について特に特徴的な事は、エリアメール

による住民に対しての避難の呼びかけであります。本市でも二十一万人の居住区域に避難の呼びかけがあり、今までに経験したこともない避難所の対応

の問題に直面した事と従来からの地域での内水の問題、そして越辺川堤防の決壊がありました。日頃からの防災活動やボランティアの方々の復旧に対する応援、そして市の体制のことも含め質問を行いました。

(一回目の質問)

①三年前に小畔川流域に対し避難勧告が発令されているが、小畔川の八幡橋水位観測所において避難勧告を発令となる基準水位設定は三年前と現在ではどのように違うのか伺う。

②今回の台風十九号で八幡橋水位観測所における最高水位は三年前の基準水位に照らし合わせるとどうだったのか。
③越辺川の決壊箇所付近はどのような経緯で現在の状況になっているのか。
④大谷川雨水ポンプ場の稼働実績はどのようになっているのか。

⑤越辺川の決壊箇所付近の整備計画はどうなっているのか。

⑥市内を流れる国・県・市が管理している河川において堤防の危険箇所を把握しているのか、把握しているのであれば洪水タイムラインに反映されているか。

(二回目の質問)

⑦水害対応時における市の体制移行に伴い、職員動員数はどのように変化しているのか伺う。

⑧災害対策本部要綱において、災害時における職員の責務が示されているのは理解しているが、今回の災害対応は長時間にわたる現場対応を強いられていたと認識している。その中で職員の交代はどのように行われるのか伺う。

⑨今回の災害体制において対応する職員の人員数に不足はなかったのか伺う。
⑩越辺川が合流する入間川において、治水対策が必要と考える箇所はあるか。
⑪大谷川雨水ポンプ場の排水能力を増強する予定はあるか。

(三回目の質問)

⑫本市の災害対応体制における人数が十分とはいえない状況を受け、今後どのように対応するのか市の考えを伺う。

⑬大谷川雨水ポンプ場から排水することが出来なくなった場合の対策についてどのように考えているのか。

越辺川堤防復旧工事（令和元年10月）



越辺川決壊



国土交通省（現地調査）

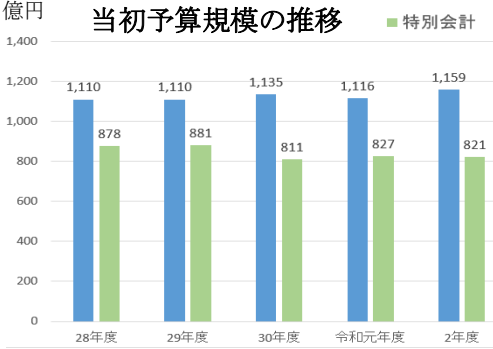


復旧工事完成

復旧開始

< 一般会計予算 1,158 億 5 千万円 >
 < 特別会計予算 820 億 7,048 万円 >

※四捨五入表示



・令和二年度予算では、厳しい財政状況の下、子育て支援や教育環境の充実を図るとともに、オリンピック関連事業の実施や災害に強い安全・安心なまちづくりに取り組み

・令和二年度一般会計予算の規模は、令和元年度当初予算と比較して、四十三億円(三・九%)の増

令和元年度三月議会

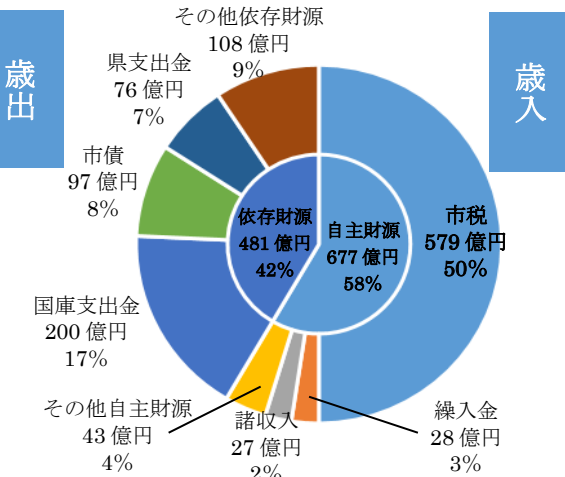
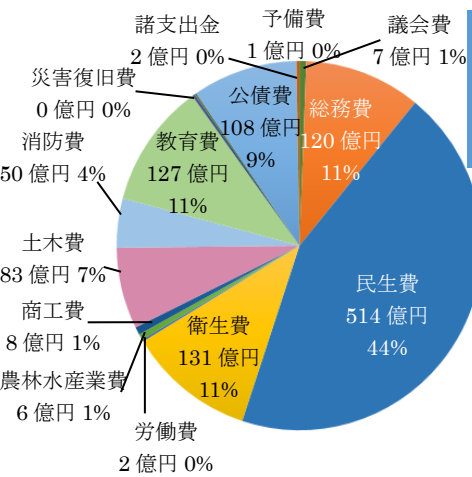
本議会は令和二年度川越市の予算編成に関する議案が中心となる議会であり、市長の新しい令和二年度に向けての市政方針と教育長による教育行政方針から始まり、我が会派清令会として小野澤康弘議員が会派代表として、川合市長の市政方針及び教育行政方針含め代表質問を行いました。

今回は三月議会の中心となる令和二年度一般会計予算について予算規模、歳入歳出予算、市債残高(借入金)及び積立基金の状況を報告いたします。(詳細は川越市広報等)

予算の規模

令和二年度一般会計予算

一、一五八億五千万円(前年比・四十三億円増)



一般会計歳入歳出予算

・歳入では、市税が前年度より四億円増の五七九億円を計上

・歳出では、民生費が引続き伸び、前年度より十五億円増の五一四億円を計上、また、衛生費も前年度より十六億円増の一三一億円を計上

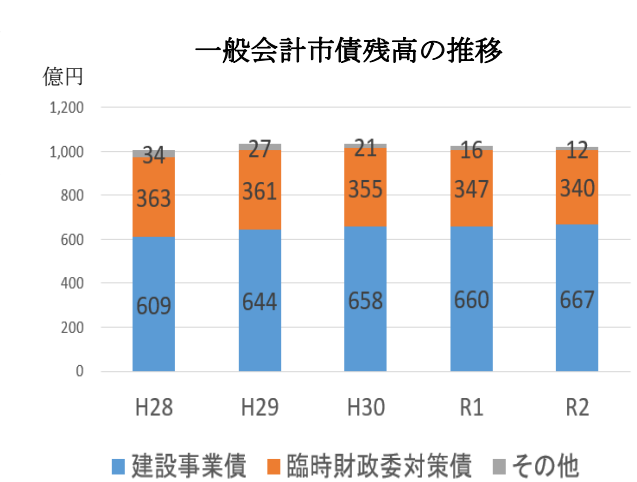
※計数は四捨五入の為一致しない場合有

積立基金の状況

・令和二年度末の積立基金残高は、財源対策として財政調整基金から約二十五億円を取り崩したことにより約四十一億円を見込む

私が思う課題

一時的ですが川越市の財政貯金は、四億円を割り余裕はなく厳しい状況です。



市債残高の状況

・市債残高は、令和二年度は、前年度から約四億円減の約一、〇一九億円を見込む

※H28、H30は決算、R1は最終予算見込み、R2は予算見込み

※計数は四捨五入の為一致しない場合有

- 市長の市政方針に対する私の質疑**
- ①市長が三期十一年で成し遂げた改革とはどのようなものか考えるか。また、残り任期における改革の集大成として何を成し遂げようとしているのか。
 - ②任期後となる市制施行百周年に向けて現在の市長としてどのように関わろうとしているのか。
 - ③今後、保育ステーションを市内主要駅で新たに展開していく考えはあるのか伺いたい。
 - ④南古谷駅北口を開設することによる投資効果について、市はどのような考えをもっているのか。
 - ⑤霞ヶ関駅を中心とする場駅を含んだポテンシャルの高い地域に対しても積極的に投資すべきであるか考えるが、市はどう考えているのか。
 - ⑥台風被害への抜本的対策について、検討された経緯があるのか。また、どのような手法が考えられ、その手法についてどのように考えているのか伺いたい。
 - ⑦財政が極めて厳しい状況下にあつて、様々な市民ニーズにこたえていくためには、財源の確保についても工夫が必要である。様々なファンドがあるなか、新たな財源確保策として行政が魅力ある施策を提示し、広く賛同者からの出資を集める「ガバメントクラウドファンディング」などの試みについて検討すべきと考えるが、市はどう考えるか。
 - ⑧旧市民会館の現状と今後の見通しについて伺いたい。

議員活動より

地域要望

川越喜多院周辺が変わりました。

私は平成十七年より喜多院周辺のまちづくりによる活性化の議会質問から始まり、その後この地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称歴史まちづくり法）による区域指定設置に努力してまいり達成することができました。その後平成二十二年

西小仙波一丁目自治会会長石川健二氏、他 民間団体と共に歴史的地区環境整備街路事業による道路の美装化に向けた要望書を提出、結果平成二十九年に小仙波一丁目一部久保町かかる喜多院門前通り線の整備が完了したことは「ひげ通信五七号〜五九号」でご報告いたしました。今回は、今回は西小仙波一丁目地内の喜多院外堀線的美装整備が完了いたしました事をご報告いたします。

○西小仙波一丁目自治会会長江守秀男様より「要望してから時がたちますが大変きれいな道路の整備ができてよかったとのコメントをいただきました。」

○西小仙波一丁目自治会会長小山弘様より「自治会の要望により美装道路が完成しうれしく思います。又、喜多院から蔵里方向へ回遊する道路となることを期待します。」

○西小仙波一丁目戸田周一氏「観光の為これから更に喜多院周辺を散策してほしいです。」

私も地元要望に対し協力し達成されたことに大変うれしく思います。



右：戸田周一様
中：小山弘様
左：小野澤康弘議員



喜多院外堀線



松平大和守家廊所

※喜多院門前通り線美装整備
平成二十九年三月完成
喜多院外堀線美装整備完成
令和二年三月完成
松平大和守家廊所整備完成
平成三十一年三月

「名細支管内上戸小学校区水害時指定避難所の見直し変更に関する要望」

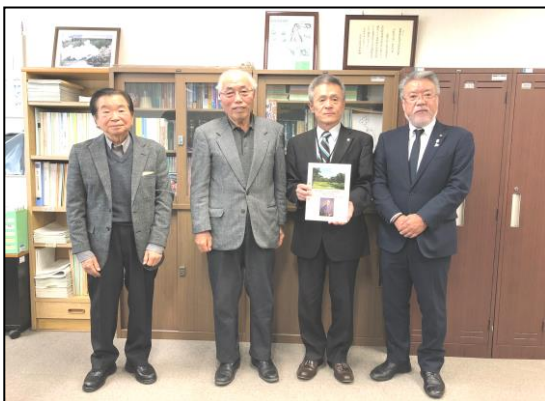
昨年の台風十九号によりこの地区でも多くの皆様の避難の誘導がありました。上戸小学校区内での指定避難場所は上戸小学校・鯨井中学校ですが、新たに作られた川越市水害ハザードマップ(想定最大規模)では上戸小・鯨井中は河川の氾濫により浸水する指定避難所となっているため地域の皆さんの意見をもとに上戸小学校区八自治会で協議を行い川越市へ水害時の避難場所の変更として西文化会館(メルト)への要望を



避難所の見直し変更に関する要望

提出いたしました。私も以前からこの地域の水害時の避難場所には課題があり自治会長との意見や地域の皆様の意見をもとに私も一緒に協議させていただきました。要望 令和二年三月十三日
東京二〇二〇オリンピック会場の創設にまつわる物語

「霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平翁」霞ヶ関地域会議、霞ヶ関郷土史研究会が発行された冊子についてこの冊子を作成された発行責任者の霞ヶ関郷土史研究会会長発智智金一郎氏より川越市教育委員会へ子供たちのために霞ヶ関カンツリーの創設者としての発智庄平氏の人物像とオリンピック教育のために活用していただきたいとの思いを込めて寄贈いたしました。
令和二年一月二十日



冊子：霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平翁寄贈